

Aから**B**なら、必ず**B**からも**A**となる。

この夏、勉強合宿では、数学の鉄人と呼ばれている学びエイドの香川亮先生をお招きし、特別授業を実施しました。数学が苦手な私でも、問題を解く楽しさを知る機会となり、その話術に魅了されました。中でも、A から B の数式について説明した時のことです。かの有名な発明家トーマスエジソンは、ある物質に電気を流すと光ること発明しましたが、実は、既に光から電気を作り出す逆説に気が付いていた。そしてこの原理は、数学にも当てはまり、A から B の答えを求めることができれば、B から A の答えも求めることができるんだ。と、興味深い解説がありました。私は思わず、「なるほど!」と声を上げてしまいました。

ユーモアいっぱいの講演、そして、謎を解くように問題を推理する面白さなど、これまでに経験したことが無い学びの連続は、数学に対する意識を変える体験となり、講演の 90 分間があっという間に感じるほど、充実した時間を過ごし、心に残る夏の思い出の一つとなりました。

令和7年9月、急に朝夕が肌寒く秋の気配を感じる季節、本校恒例の大成祭が開催されました。体育館アリーナでは、6年振りとなる1年生の合唱コンクールが復活し、素晴らしい歌声を会場内に響かせました。ふと、私は、勉強合宿で学んだ A なら B、B なら A の原理を思い出したのです。

すなわち、クラス(A)が一致団結して合唱コンクール(B)で力を発揮することができるのであれば、合唱コンクール(B)を利用してクラス(A)の絆を深めることもできるのではないかと思ったのです。

人は、目標に向かって努力すれば、達成できたかどうかは満足度を左右する大きな指標となることは言うまでもありません。しかし、数学的根拠からも分かるように、A により導き出した正解 B を逆の発想で紐解くのであれば、結果を評価することではないはずです。

クラスでは、この日を迎えるまでうまくいかないことが多くあったことでしょう。それでも、目標に向かい練習を続けることで、音と音、声と声とが信頼を絆につなぎ合い、重なり合い、やっとの思いで美しい音色となったのではないかと感じるのです。私は、審査員として歌声を聞く中、ハーモニーや声量、表出するパフォーマンスだけではなく、練習を通して身に付けた連帯感を評価し、数学の原理に当てはめてみました。まさに、クラスを A とするならば、B となる合唱コンクールで一つの作品を作り出し、その結果、B で A の結びつきを強固なものにしていると確信しました。

大成祭初日、2年前に世界一の大きさとして認定された本校の代名詞モザイクアートが今年も西校舎屋上から披露されると、大きな歓声があがりました。これも A と B に置き換えると、全生徒で完成させた作品は、学びの匂いとなり、約1400人の生徒の心を一つにすることができたに違いありません。

令和7年9月

